

育 教 の 兒 幼

月 七 年 二 十 和 昭

廣 い 關 心

—— 保 姆 諸 君 と 語 る —— (七)

倉 橋 惣 三

保姆さん方の手は、ひき／＼の子ぎもを抱く。その心はその子へ聚注して、ほかのこを思ふ間もない。この貴い狭さこそが、教育實際家のけ高い姿である。彼女はその子のいゝ先生であつて、教育をしてゐるさいふこさへ忘れてゐるかも知れない。その意味で、保姆にはひき／＼の子ぎもあるのみで、教育界なんていふものはないともいへる。しかし、それは、其子を前にしての保姆の心である。その聚注、その忠實、少しも矛盾することなく、その手堅さを少しも稀薄にすることなく、やつぱり氣にかゝるのは、此の事業の一般問題である。自分が、その一端に立ち一部を引受けてゐるところの、保育事業そのものゝこである。廣い關心だけあつて、手を空うして、子ぎもを置き忘れたりしてゐるのは、以ての外である。保姆は保育行政者ではない。保育評論家ではない。保育政策者でもない。しかしまた、餘りに狭い立て籠りに、廣い關心の全く無いのも、たのもしからぬ至りである。

關心をもつたきて、さて何が廣く働けるものでもなしといふ人がある。ここによつたらそうなのかも知れない。しかも關心は必ず實行でなければならぬこともない。少くもこゝでは、そんなことを要求強要してゐるものではない。たゞ、無關心では物足りないのである。それは餘りに冷かさいふか、うすっぱいさいふか、水くさいさいふか、ここによつたら、一種の自己中心生活者で、人のこゝはさうでもない、さいふ無訓練者なのか。兎に角に、一緒に仲間らしくない譯である。實行には暇がいら、能力がいら、又立場もいる。誰れにでも一々効果ある實行が出来るさいふものではない。けれども心は心の強さをもつ。陰ながら心配してゐるだけでも、密かに念じてゐるだけでも、否々、だけでもなぞいつては勿體ない。そうした實のある心の強さ、それは、さこかで、ぎんなかの形で、實行的な力をもつものである。自らは大したものでもないさ知つてゐる小さい一つ／＼の炭火が、火がついてゐる限り、集まれば互を温めあつてゐるように、それが室中に温まりを與へるように。火鉢の中の冷い黒い炭塊位、あたりを冷く、寒くするものはない。

○

世界教育會議が近づいた。デンバーにあつても、トロントにあつても、オックスフォードにあつて、それは私達の會議であつた。それが今年、來月は、もう數週の後には、日本で、東京で、本郷で開かれるのである。そのために、多數、千に近い多數の仲間が海を越えて集つて來て呉れるのである。これこそ實に、友あり遠方より來るである。

その人々は何のために來るか。富士山も、日光も、箱根も、否々現代日本の首都東京が、その大きな興味をなしてゐるこゝではあらう。しかも、それは、旅人としての興味である。會議、その人達が目ざして來る會議は世界の教育への關心である。——その中に幼稚園教育がある。何んさ多くの仲間が、幼稚園教育の發達に對する關心を以つて、遙か／＼の國國からまでさへ集つて來て呉れるこゝか。但し、私は茲で、世界教育會議のための宣傳掛りをしてゐるのではない。それ

○
も他のところではするが、こゝでは、こんな大きな關心の實例として引きあひに出したのである。すなはち、世界全體に亘つての關心さへ、われゝの仲間にもつこいふこの例である。國の問題として、府縣の問題として、市町村の問題として位の關心は、是非とも皆が持たなければならぬまい。——なかには、自分の組だけに立籠つて、自分の園の全體をさへ、全體として關心のもてない人もあつたりするのは、餘りに關心の狭いこゝにいへよう。

○
關心の廣さは年齢に比例するこいふ人がある。そんなこゝもありそうでもある。しかし、幼稚園の先生は、そんなに若くたつて立派な大人(たいじん)讀むである。自分の身邊のこゝにしか心の届かないやうな子さでもない筈である。若しそうだつたら、小兒病といはれても仕方あるまい。若いからこゝそ心の興味も豊に、感激も強い譯で、天下のこゝが氣にかゝつてならぬ筈である。年功の人々は、それだけ高いこゝに居て、ものを見渡すこゝになる。一層の廣い關心をもたずにはゐられなくなるのである。それを、萬一、年甲斐もなく引込み思案で、世のため、保育界全體のためこいふ氣が無いとしたら、それこそ不精者といはれても仕方がなく、年をこゝつて心が縮んだといはれても、お怒りになれないであらう。そこで、關心の廣さは年齢でなく、保育事業そのものへの熱意如何である。いひつけられた仕事。職業のためだけのこゝいふのだつたら、自分の受持ち以外はごうなつてもいゝ。苟も、此の事に當る以上、此の事全體に心を配り、全體のために懸念し、考慮もせずにはゐられないであらう。

ひかへめゝも、美德に似て、實は横着でありづるであるこゝさへないではない。遠慮々々も、謙遜に似て、實は。……そんなこゝまでいはずでもないでせう。此の道のため、斯界のため。それでいゝでせう。